

広告特集 企画・制作 朝日新聞社メディアビジネス局 協力 株式会社ワタナベエンターテインメント

林修 × 朝日新聞



林修の特別授業

未来を担う人を支える



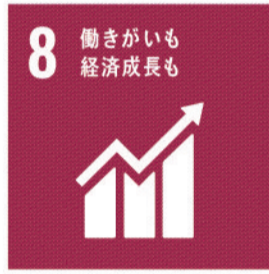
日本農業経営大学の卒業生は全国各地にいる。そのネットワークの広さも彼らの強み。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

SDGs (Sustainable Development Goals 持続可能な開発目標)とは

世界が抱える問題を解決し、持続可能な社会をつくるために世界各国が合意した17の目標と169のターゲットのこと。2015年、SDGsの前身であるMDGs(ミレニアム開発目標)を継承し、国連で採択された。

■今回取り上げる社会課題は



今から10年、20年後。日本の農業は大きく様変わりしているかもしれません。経営感覚にすぐれた若い農家が各地で活躍し、農業は安定した職業として人気を博す。各地で始まっている新たな取り組みから、そうした明るい未来図が見えてきそうです。林修編集長と望月まりなりポーターが、農業の今とこれからをお伝えします。



今回のテーマ
これからの農業経営
林修の特別授業
協同組合 第16回

林 これまで各地のJAを取材していましたが、生産者の高齢化と後継者不足は課題になっていましたね。その対策として、地域ブランドの活性化やICT(情報通信技術)の活用など、地域ごとに様々な取り組みがありました。

望月 そうした努力と同時に、大切なのはやっぱり若い担い手を育てることですよね? 今回私は、東京の品川にある「日本農業経営大学校」を取材してきました。1学年は20人と少ないですが、入学者の3分の1が農家以外の出身で、これまでの卒業生の就職率は、なんと100%。4年制大学や県立の農業大学校を卒業した後にも、もっと学びたいとやってくる人も多くいます。

林 農業「技術」でなく、農業「経営」を教える学校というのが面白いですね。

望月 さすがは編集長。まさにそこがポイントで、この学校では経営学や会計学、マーケティングなどのほか、幅広い視野やリーダーシップを身に付けるために、社会学や心理学を学ぶこともできるんです。2年次の後半は卒業論文にあたる「経営計画」づくりに取り組み、卒業後はその計画に沿って実際に法人を立ち上げた人もいます。

林 農業実習はないんですか?

望月 1年次に4カ月の実習があります。が、受け入れ先は学生が自分で見つけて自分で交渉しなければなりません。さら

林 労働力の不足はロボットなどで補っても、ロボットをどう使うか考えるのは人間です。これからの時代、多様な知識、経験とアイデアを持つ農業「経営者」の育成はとても重要です。

望月 日本農業経営大学校は、現在7期生が学んでいるまだ若い学校です。今後卒業生がどんどん増えれば、日本の農業は変わっていくかもしれませんね。

林 農業の明日を開く人を育てる。日本農業経営大学校

農業を「経営する」ということ

に2年次には、農業以外の企業で3カ月間の実習も義務付けられています。

農業の担い手を育て、支えていくための新たな取り組みを取材し報告せよ



編集長
東進ハイスクール 講師
林修先生
はやし・おさむ / 東京大学法学部卒業。東進のTVコマシャルのセリフ「いつやるか?今でしょ!」が2013年新語・流行語年間で賞に。受験生から絶大な信頼を得る傍ら、多数のTVレギュラーを抱え多忙な日々を送る。

林 経営感覚を身につけた若い就農者が全国各地で新しい価値を生み出しています



学生が発信・議論する授業が多い

未来のために、どちらも大切で農家を育てることと支えること



西三河地域は県下最大の促成なす産地

リポーター
望月まりなさん
もちつき・まりな / 2002年9月22日生まれ。滋賀県出身。7歳からダンスを始め、国内の大会だけでなく、海外の大会でも多くの優勝経験がある。ダンスと学業との両立を目指す女子高校生ダンサー。現在は朝日新聞大学入試キャンペーンイメージキャラクターを務める。

林 農業を取り巻くリスクには見落としがちなものも多いですから、その全てを把握して備えておくというのは難しいでしょうね。

望月 そうなんです。たとえば自分の散布した農薬がよその畑にかかってしまったり、農産物を食べるためにも重要ですから、私たちが応援したいですね。

林 リスクへの備えがあれば、若い世代も安心して農業を継ぐことができる。後継者がいれば、将来のためにしっかりと備えようと思う。その二つは密接に関連しています。大切な活動ですので、今後もぜひ続けてほしいと思います。

林 担い手不足解消のために必要なことは二つあると思います。一つは今の話のように人材を育てること。もう一つは新規就農者でも安心して農業に従事できる環境を整えることです。

望月 そうです。JA共済で全国的に取り組むを進めている「農業リスク診断」を調べるため今回はJAあいち三河の共済部の活動を取材してきました。JAあいち三河では共済部のライフアドバイザーが農家を訪ね、携帯端末の画面を一緒に見ながら農業を取り巻くリスクの確認をしてくれるそうです。

林 農業を取り巻くリスクには見落としがちなものも多いですから、その全てを把握して備えておくというのは難しいでしょうね。

望月 そうなんです。たとえば自分の散布した農薬がよその畑にかかってしまったり、農産物を食べるためにも重要ですから、私たちが応援したいですね。

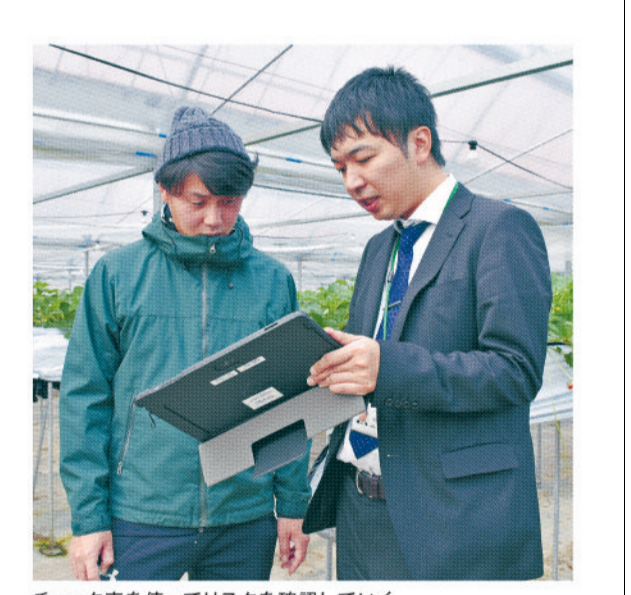
林 リスクへの備えがあれば、若い世代も安心して農業を継ぐことができる。後継者がいれば、将来のためにしっかりと備えようと思う。その二つは密接に関連しています。大切な活動ですので、今後もぜひ続けてほしいと思います。

もしもに備え安心を届ける

損害賠償を求められたり、その畑の作物が出荷できなくなったらどうしますか、と具体例を挙げながら確認していくと、見落とししている意外なリスクに気づくことも多いようです。

林 農業法人として働く人を雇用している場合は、従業員の労務管理などにも注意しなければなりません。農業を取り巻くリスクも時代とともに変化してきています。

望月 JAあいち三河では農業リスク診断を保障の契約につなげる推進活動ではなく、リスクに気づいてもらうための啓発活動と位置づけています。農家が安心して働ける環境を守ることは安全安心な農産物を食べるためにも重要ですから、私たちが応援したいですね。



チェック表を使ってリスクを確認していく



家族の暮らしの安心を守ることも共済の役割

「林先生のなるほど! 社会見聞録」
テレビ朝日系列ほかにて
番組をご覧いただいた方に素敵なプレゼントも!
※一部地域では放送時間が異なります。



耕そう、大地と地域の未来。 JAグループ